

## 2006年4月1日 九州大学病院ハートセンター設立



### ハートセンター設立にあたって

九州大学病院心臓外科科長

ハートセンター長 富永 隆治

平成18年4月1日にいよいよ九州大学病院ハートセンターがスタートいたします。当センターは九州初の

循環器内科・心臓血管外科・第一内科(循環器グループ)が一体となった心臓病専門施設です。大学病院の診療科がとかく細分化されがちな昨今、画期的な施設の誕生といえます。

当センターではまず患者様を第一とし、診断から治療まで迅速な医療提供を目指します。心カテ室、手術場、CCU、ICUが同一フロアにあり、各科の専門医が集結し総合的な診断をすることで、患者様お一人お一人に必要な高レベルの治療を提供していくことが可能となりました。

昨年2月には九州初の心臓移植が行われました。心臓移植には一部保険適応とはなったものの実際にはドナー不足、子供への移植の問題と課題はたくさんあります。心臓移植を待つ多くの患者様のためにも、当センターは西日本地域での心臓移植拠点施設として、また先進的医療の拠点施設として高度先進医療を担い、先生方をはじめ学外施設との幅広いネットワークを持ち、地域の救急医療の要となることは当然の責務と考えます。施設の充実を図るため各科一体となり努力いたす所存です。

皆様方の御指導、御力添えをどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 今春待望のハートセンターが設立されます

九州大学病院循環器内科科長 砂川 賢二

循環器医療が高度に専門化し細分化されるなかで、多様な時代の要求に応え真に患者のための医療を展開するためには、優れた専門知識や技術をもった医療スタッフが連携し、患者を中心にした診療体制を構築する必要があります。今回、このような理念に基づいた待望のハートセンターが開設されます。総ベッド数は54床で、冠動脈疾患治療部の10床と一体化し64床で運用されます。心カテ室、手術場、生理検査室等はすべて物理的にハートセンターと統合されます。スタッフは総勢31人の医師と36人の看護師で、内科外科の壁を越え一元的で高品位な医療の実現をめざします。このような体制をとることで、1)地域のニーズに合致した24時間の急患受け入れ、2)虚血、心不全、不整脈、先天性心疾患、大動脈瘤等のあらゆる循環器疾患に対する先端医療の実践、3)肺高血圧症や複雑な合併症のある難治性循環器疾患などの九州での拠点形成、を積極的に推進していきたいと思っております。その上で現代医療では救済できない難治性循環器疾患を克服するための先駆的医療の開発に邁進し、地域住民や国民あるいは人類のために貢献していきたいと思っております。

臨床は常に地域医療が基盤です。ハートセンターで患者のための医療を展開するためには、地域医療の最前線で活躍しておられます先生方との連携が不可欠です。患者を中心にした高品位な医療を展開するために、先生方のご期待に応えられるように全力を尽くす所存です。倍旧のご支援を賜れば幸いです。

## 心臓カテーテル検査部門

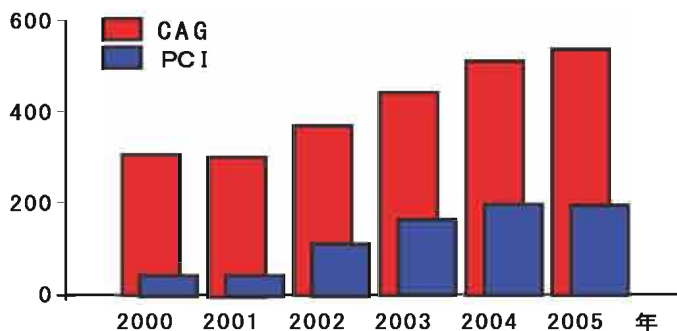
循環器内科 竹本真生

狭心症・心筋梗塞をはじめとする虚血性心臓病の診療においては医師(循環器内科医と心臓外科医)、医療スタッフ、患者が出来るだけ近い空間に集中し、コミュニケーションを取りながら診療に携わって行くのが良いのはいうまでもありません。ハートセンター開設は理想的な地域医療のための院内構造物の整備といえると思います。

虚血性心臓病が増加に伴い、当科における心臓カテーテル検査(CAG)数、冠動脈カテーテルインターベンション(PCI)数、急性心筋梗塞に対する緊急CAG、PCI数がここ数年で飛躍的に増加しています(右図)。さらに方向性冠動脈粥腫切除術(DCA)、高速回転式冠動脈粥腫切除術(ロータブレード)、薬剤溶出ステント(DES)などの新しいデバイスの出現により複雑病変へのアプローチも可能となりました。昨年の当科でのPCIの

成績は病変成功率が97%、再狭窄率18%と他施設と比較して遜色ない成績でした。

今後も24時間の循環器救急態勢を発展させると同時に、患者様のためになる最善の医療を提供していきけるよう精進していきたいと思っております。今後も引き続き患者様を紹介していただきますようお願いいたします。



九州大学病院・循環器内科 CAG・PCI数の変遷

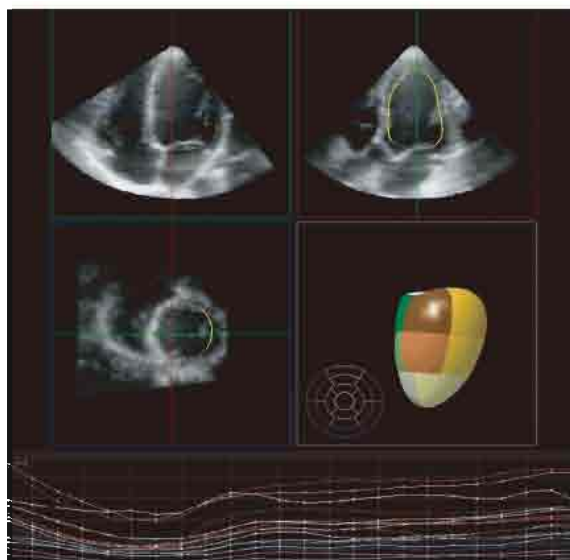


←狭心症に対する冠動脈インターベンション治療  
CAGにてseg 13-90%に病変を認めた(左図)。  
PCIを施行し(中央図)、良好な拡張が得られ(右図)、  
狭心症状は消失した。

## 心エコー検査部門

循環器内科 長澤志麻子

心エコー検査は、心臓の形態と機能について、非侵襲的に多くの情報を得ることができます。当院では年間約6000件の心エコー検査を行っており、福岡近郊では有数の症例数です。ハートセンター開設にあたっては、最新機能を搭載した心エコー装置を新たに購入しており、これまでできなかったような解析も可能となり、更なる質の向上を目指します。瞬時に三次元画像を構築できるリアルタイム3Dエコーを用いれば、弁膜症や先天性心疾患における立体構造を客観的情報として示すことが可能になり、術前検討における貢献が期待されます。また容積や重量の定量評価にも優れており、計測の正確性の向上が期待されます。その他、組織ドプラ法やストレインレート法による協調運動不全の診断も容易となり、難治性心不全に対する心臓再同期療法(両心室ペーシング)の術前予測などに有用です。質の高い検査を目指して頑張りますので、ご紹介よろしく御願います。



## 心臓リハビリテーション部門

循環器内科 井手友美

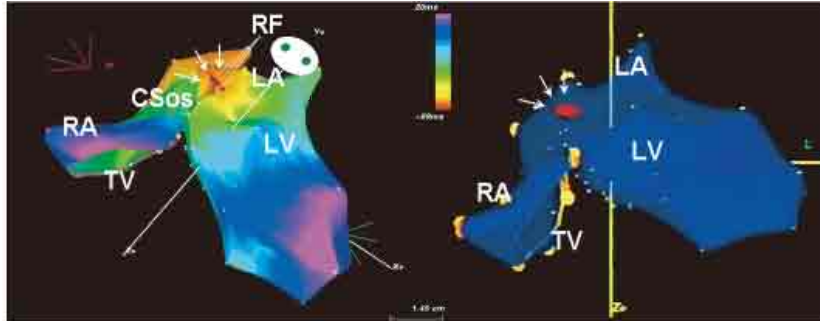
これまで、循環器内科の外来の方を中心に少人数で心臓リハビリテーションを行ってきましたが、4月からは、トレーニングマシンも新たに増やし、術後早期の患者様や心不全で入院中の方など、幅広く心疾患の方を対象に急性期から慢性期治療としての心臓リハビリテーションを行います。心臓リハビリテーションによって、筋骨格の運動能力の向上はもちろん、心筋梗塞再発予防、狭心症状の改善、心不全症状の改善に効果をあげています。



## 不整脈治療部門

第一内科 加治良一

1993年以来、600人の頻脈性不整脈患者さんにカテーテルアブレーションを行ってきました。成功率88%、重得な合併症 0.3 % (心筋梗塞、脳梗塞各1例)が結果です。2005年は42人を治療しました。特筆すべきことは新しい機器導入により5人の心房細動患者さんすべてに洞調律が回復したことです。それまでは11人に対し成功率 50 % でしたので、成績向上は明らかです。ハートセンターではさらに新しい機器が導入されますので、より多くの患者さんの福音になるものと期待しております。その他一般電気生理学的検査はもとより、植え込み型除細動器や心不全に対する両心室ペーシングなど認定施設としての責任を果たしてゆく所存です。



WPW症候群に慢性心房細動を合併し、wide QRS tachycardia となった症例。CARTOを用いた mapping により左心室後中隔側に最早期興奮部位(ケント束)を認め同部位に通電を行い wide QRS tachycardiaは停止した。

## 心臓血管外科部門

心臓血管外科 中島淳博

心臓外科部門は富永教授、益田助教授、富田講師をはじめ、助手3名、医員1名、レジデント1人、研修医1人の9人で臨床業務を担当しており、毎日手術、週1回木曜日外来診療という診療体制を組んでいます。例年200例前後の開心術を行っておりますが、2005年は215例の開心術(体外循環非使用冠動脈バイパス術を含む)を含む326例の手術を施行いたしました。

昨年度は九州初の心臓移植を無事に終わらせることが出来たのが最大のトピックでした。冠動脈バイパス術症例は88例、約30%の症例において体外循環非使用心拍動下手術適応でした。弁膜症手術は63例、大動脈弁手術では高齢者の増加を反映し生体弁使用症例が多く、僧帽弁手術の約半数で弁形成術を施行しました。弁膜症手術の歴史が長い当院では、再～再々再手術症例や重症症例が多いのが特徴です。先天性心疾患手術は44例、超低出生体重児動脈管開存症手術から複雑心奇形まで幅広い症例で良好な成績をあげています。大動脈疾患は25例、その他補助人工心臓装着3例、植え込み型除細動器植え込み7例、ペースメーカー植え込み59例といった手術を行っております。

全手術症例中4分の1が緊急手術症例の中、CABG症例の31%、大動脈瘤疾患手術の56%が緊急/準緊急手術でした。患者様をご紹介いただきながらも全症例受け入れることが出来ていないのが現在の大きな問題の一つです。よりスムーズな診療連携を行いより一層緊急手術症例に対応していきたいと考えています。

	2003	2004	2005
<b>手術総数</b>	256	331	326
	death:4(1.6%)	death:8(2.4%)	death:5(1.5%)
<b>開心術</b>	192	206	215
<b>虚血性心臓病</b>	78	64	88
	death:1(1.3%)	death:1(1.6%)	death:1(1.1%)
			2.99本/Pt
Off pump CABG	26	23	25
緊急/予定手術	12/66	19/45	28/60
動脈のみ	70	47	69
動脈+静脈	6	17	18
静脈のみ	2	-	1
<b>心臓弁膜症</b>	48	64	68
	death:1(2.1%)	death:1(1.6%)	death:1(1.5%)
単弁/複合弁	24/24	38/26	42/25
<b>大動脈弁</b>	23	30	38
生体弁/機械弁/形成	7/16/0	16/13/1	22/14/2
<b>僧帽弁</b>	30	37	40
生体弁/機械弁/形成	7/9/14	13/11/13	6/14/20
<b>三尖弁</b>	17	19	21
<b>先天性心疾患</b>	52	62	44
	death:2	death:4	death:0
新生児/乳児	5/9	7/20	2/14
<b>大動脈疾患</b>	16	25	25
	death:1(6.3%)	death:0(0%)	death:2(8.0%)
解離性/非解離性	9/7	12/13	14/11
<b>メイズ手術</b>	7	22	10
<b>腫瘍摘出</b>	4	4	4
<b>収縮性心膜炎</b>	0	0	1
<b>補助心臓植え込み</b>	1	6	3
<b>心臓移植</b>	-	-	1
<b>ペースメーカー植え込み</b>	51	65	59
<b>植え込み型除細動器植え込み</b>	8	10	7

## 【ハートセンターホットライン】

急患や入院・心臓外科緊急手術の依頼などはホットラインまでご相談ください。  
病棟医長または当直医が24時間対応いたします。

### 外科部門

092-642-5100 + 2295

### 内科部門

092-642-5100 + 2200

又は、090-7980-1204

### その他の連絡先

092-642-5563 (心臓外科病棟) 092-642-5368 (循環器内科病棟)  
092-642-5100 +2133 (第一内科循環器グループ)

## 外来のご案内

外来棟は、これまで通り、外来中央診療棟にて行います。

受付時間 8:30~11:00

心臓外科外来新患日	毎週	水・木
循環器内科外来新患日	毎週	月～木
第一内科循環器外来新患日	毎週	水



《循環器内科および第一内科循環器グループ》



《心臓外科》



### 《おわりに》

循環器内科の広報誌として発刊して参りましたこのBEATですが、このたびハートセンター特集号とさせていただきます、各部門のご紹介をさせていただきました。今後、検査・治療に対するご意見、ご要望などご遠慮なくお寄せいただければ幸いです。よろしく願い申し上げます。

広報誌担当 井手  
beat@cardiol.med.kyushu-u.ac.jp